

## 不凍水抜栓

MT-II・MT・TKシリーズ  
MV/BH-10/ST-II

## 工事店様用

## 施工説明書

公益社団法人日本水道協会品質認証センター認証登録品

- この度は、不凍水抜栓をお求めいただき、まことにありがとうございます。この施工説明書をよくお読みいただき正しく施工して下さい。
- 本製品は、水抜きハンドルを操作することにより、配管内の水を抜き、凍結を防止する器具です。
- 取扱説明書に貴店名を明記の上、お客様にお渡し下さい。

## 安全上のご注意

ここに示した警告および注意は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、内容をよく理解して正しく施工して下さい。

## ■安全表示について

表示	表示の意味すること
⚠ 警告	人が死亡したり、重傷を負う可能性がある内容です。
⚠ 注意	人が障害を負ったり、物的損害が発生する可能性がある内容です。
🚫	絶対にしないで下さい。(行為の禁止)
🛑	必ずして下さい。(行為の強制・指示)

## ⚠ 注意

## 🚫 禁止

- ・器具を分解しないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- ・落下等による衝撃を与えないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- ・火気や熱源を近づけないで下さい。部品の劣化や変形により、作動不良の原因になります。
- ・保護キャップは配管直前まで外さないで下さい。異物が混入し、作動不良の原因になります。
- ・勾配不足や鳥居・U字配管は、避けて下さい。このような配管によって水が抜けにくく凍結・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・寒冷地仕様以外の水栓は使用しないで下さい。寒冷地仕様以外の水栓は、開栓しても配管内に空気が入らず水が抜けられないため、凍結・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・MT-IIシリーズ・MVの内筒管一式交換の際は、強く締め付けすぎないようにして下さい。締め付けが強すぎると、点検・修理に不具合が発生する恐れがあります。
- ・ベンジン・シンナー・トルエン等の有機溶剤入りの洗剤は使用しないで下さい。塗装が剥がれたり、印刷が消えたり、部品が溶ける恐れがあります。

## 🛑 強制

- ・ステンレス配管を接続する際は、絶縁処理を適切におこなって下さい。電気腐食の恐れがあります。
- ・管軸に対して操作部を垂直・上向きに施工して下さい。作動不良の原因になります。
- ・作業時は保護具を使用して下さい。けがをする恐れがあります。
- ・排水部を凍結深度以下に設置して下さい。埋設が浅いと凍結・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・排水部周辺は、浸透マスまたは、砂利・砕石等を用いて、水はけをよくして下さい。水はけが悪いと凍結・破損し、漏水したり、外筒から抜いた水があふれる恐れがあります。
- ・接続は、本体の矢印方向と配管の流水方向を合わせて下さい。方向が合っていないと凍結・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・水抜きハンドルが確実に回せる空間を確保して下さい。水抜きハンドルが確実に回せない、凍結・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・弁室内に施工する場合は、ハンドル操作が容易にできる空間を確保し、水はけを良くして下さい。
- ・床下に施工する場合は必ず付近に点検口を設けて下さい。メンテナンスが困難になります。
- ・施工前、配管接続部の清掃をおこない砂・ゴミ等の異物を排出して下さい。異物によって損傷・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・施工後、配管内の洗浄をおこない砂・ゴミ等の異物を排出して下さい。異物によって損傷・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・仕様の範囲内でお使い下さい。範囲外での使用は、器具の破損や性能劣化等の恐れがあります。

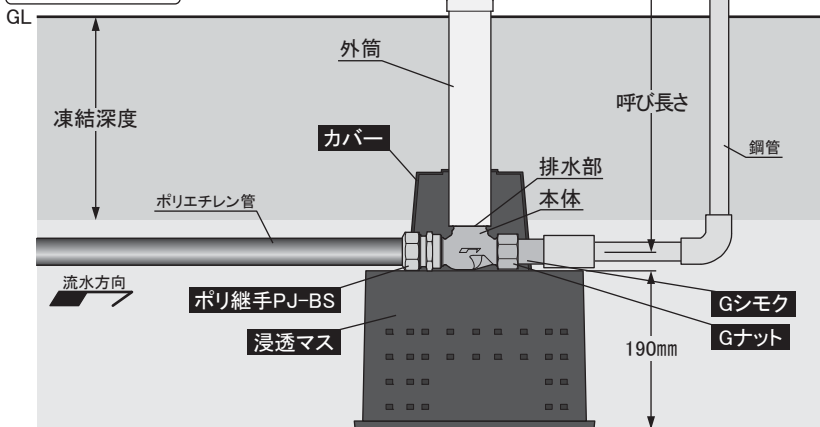
# MT-II 施工例と各部名称

## ■仕様

使用流体	水道水
使用温度	35℃以下
	80℃以下 ※MT-II H/MT-H/TK-H3湯用
使用圧力	1.0MPa{10.2kgf/cm <sup>2</sup> }以下

水道法性能基準適合(耐圧・浸出性能)

## ■オプション



## 施工方法

### 1. 配管前に…

- ①メンテナンスのため、水抜きハンドル上部に内筒管一式(内部構造)が抜き出せる場所を選んで下さい。
- ②メンテナンスのため、キャップが地上に出る施工をして下さい。
- ③排水部を必ず凍結深度以下に施工して下さい。
- ④水を抜いた時、排水が確実に浸透する施工をおこなって下さい。

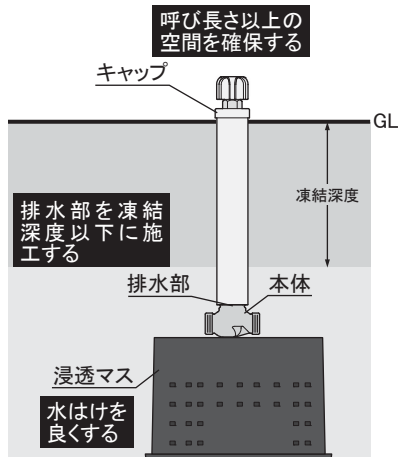
- ❗ 排水部をふさがない
- ❗ 浸透マス・排水ブロック等を使用する

### ■オプション

長期間の排水効果が保てます。

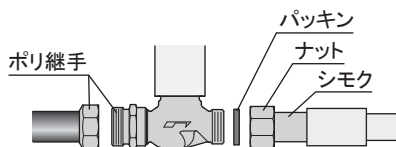


浸透マスカバーセット



## 2. 配管との接続

- ①1次側、2次側の配管種類に合わせて、シモク・ナット、継手等を配管に取り付けます。
- ②本体の流水方向を確認して、ナットにパッキンを入れ工具を使って締め付け、本体と接続します。



(例 1次側:ポリエチレン管接続、2次側:鋼管接続)

❗ 配管接続部を清掃する

❗ 流水方向を確認する

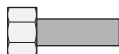
品名	配管接続
MT-II/MT-II-C/MT-II-H MT/MT-H/MT-C/MT-F/MT-A TK-H3/TK-H3R/TK-H3RS/ST-II	1次・2次: 平行おねじ
MV/TK-L/BH-10	1次・2次: 平行おねじまたはテーパめねじ
MT-II-PP/MT-II-PPB/MT-PP/MT-PPB	1次・2次: ポリエチレン管継手

### ■オプション

配管との接続に便利な継手です。用途に合わせてお使い下さい。



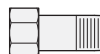
ポリ継手 PJ-BS



VPシモク・ナット



HVPシモク・ナット



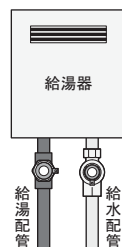
GPシモク・ナット

## 3. 吸気弁または吸気弁付止水栓の取り付け

- ①給湯器まわりは、水栓金具(蛇口等)を開けても空気が吸入されず、水が抜けません。必ず吸気弁・吸気弁付止水栓を取り付けて下さい。
- ②各立上り管のできるだけ高い位置に吸気弁・吸気弁付止水栓を取り付けます。壁中配管の場合には、吸気弁が必ず壁外に出る施工をして下さい。

### ⚠ 注意

吸気弁を付けても吸気弁より先の配管や給湯器内の水は、配管条件等により抜けない場合があります



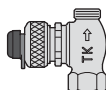
(例 V-F II / S-VL給湯器接続)

### ■オプション

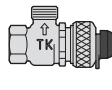
水抜き操作で、自動的に空気が吸入されます。



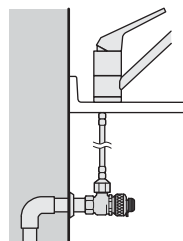
吸気弁 V-F II



吸気弁付止水栓  
S-VL



S-VA



(例 S-VA台所用混合栓接続)

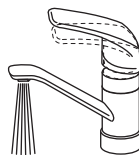
## 洗管と作動確認

### ■洗管

施工後、水栓金具（蛇口等）を全開にし、水を流して配管の洗浄をおこなって下さい。

### ■作動確認

洗管後、水抜きハンドルを操作して水が抜ける（排水する）ことを確認して下さい。



洗管作業

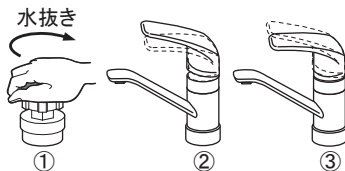
## 操作方法

### ■水抜き操作（凍結防止）

- ①水抜きハンドルを“水抜き”方向（右回り）に止まるまで回します。
- ②水栓金具（蛇口等）を開けます。（水が抜けます）  
※シングルレバー混合栓の場合、レバーを中央位置にしてから開けて下さい。

❗ 空気を吸入しないと水は抜けません

- ③水抜きが終わったら、水栓金具を閉めます。

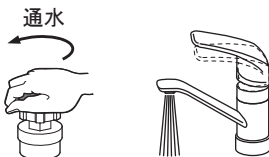


### ■通水操作

❗ 水栓金具（蛇口等）が閉じている事を確認する

水抜きハンドルを“通水”方向（左回り）に止まるまで回します。（通水状態になります）

※水栓金具（蛇口等）を操作してお使い下さい。



⚠ 注意

通水操作直後は水栓金具（蛇口等）から水が飛び散ることがあります

## 不凍水抜栓

MT-II・MT・TKシリーズ  
MV/BH-10/ST-II

## お客様用

## 取扱説明書





公益社団法人日本水道協会品質認証センター認証登録品

- この度は、不凍水抜栓をお求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みいただき正しくお使い下さい。
- 本製品は、水抜きハンドルを操作することにより、配管内の水を抜き、凍結を防止する器具です。
- この取扱説明書は、大切に保管して下さい。

## 安全上のご注意

ここに示した警告および注意は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、内容をよく理解して正しくお使い下さい。

## ■安全表示について

表 示	表示の意味すること
 警告	人が死亡したり、重傷を負う可能性がある内容です。
 注意	人が障害を負ったり、物的損害が発生する可能性がある内容です。
 禁止	絶対にしないで下さい。(行為の禁止)
 強制	必ずして下さい。(行為の強制・指示)

 注意 禁止

- ・器具を分解しないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- ・器具に強い衝撃を与えないで下さい。作動不良や漏水の原因になります。
- ・ベンジン・シンナー・トルエン等の有機溶剤入りの洗剤は使用しないで下さい。塗装が剥がれたり、印刷が消えたり、部品が溶ける恐れがあります。

 強制

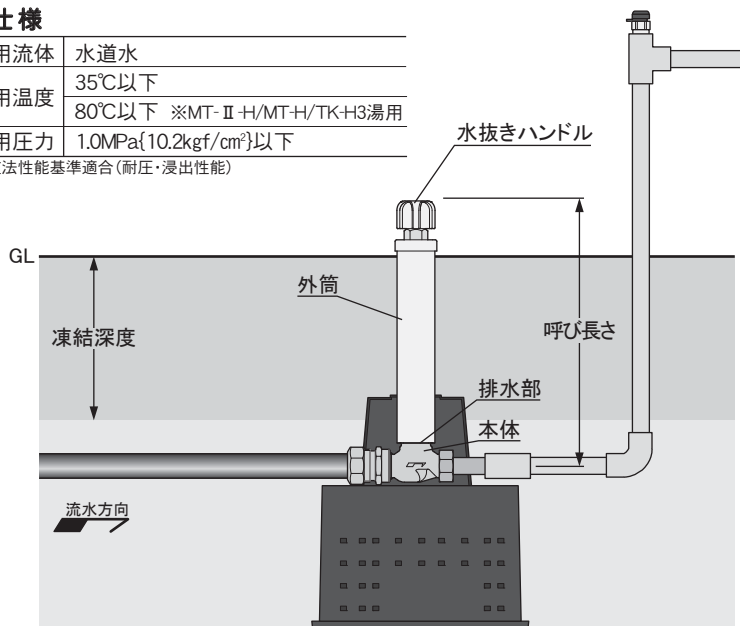
- ・水抜き操作時、必ず立上り管に空気を吸入して下さい。立上り管に空気が入らないと水は抜けません。
- ・冬期間は、確実に水抜き操作をして下さい。器具の凍結は、器具が破損し、漏水の恐れがあります。
- ・水抜きハンドルは全閉・全開にしてお使い下さい。
- ・解凍作業をおこなう場合には、温度の上昇に十分注意して下さい。パッキン等が損傷・破損し、漏水の恐れがあります。
- ・器具保守のため、月に一度程度の割合で操作し、確実に水が抜けることを確認して下さい。
- ・仕様の範囲内でお使い下さい。範囲外での使用は、器具の破損や性能劣化等の恐れがあります。

## MT-II 施工例と各部名称

### ■仕様

使用流体	水道水
使用温度	35℃以下
	80℃以下 ※MT-II-H/MT-H/TK-H3湯用
使用圧力	1.0MPa{10.2kgf/cm <sup>2</sup> }以下

水道法性能基準適合(耐圧・浸出性能)



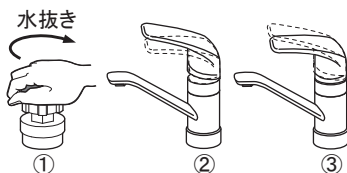
## 操作方法

### ■水抜き操作(凍結防止)

- ① 水抜きハンドルを“水抜”方向(右回り)に止まるまで回します。
- ② 水栓金具(蛇口等)を開けます。(水が抜けます)  
※シングルレバー混合栓の場合、レバーを中央位置にしてから開けて下さい。

**!** 空気を吸入しないと水は抜けません

- ③ 水抜きが終わったら、水栓金具を閉めます。



### ■通水操作

**!** 水栓金具(蛇口等)が閉じている事を確認する

水抜きハンドルを“通水”方向(左回り)に止まるまで回します。(通水状態になります)

※水栓金具(蛇口等)を操作してお使い下さい。



**!** 注意

通水操作直後は水栓金具(蛇口等)から水が飛び散ることがあります

部品名称

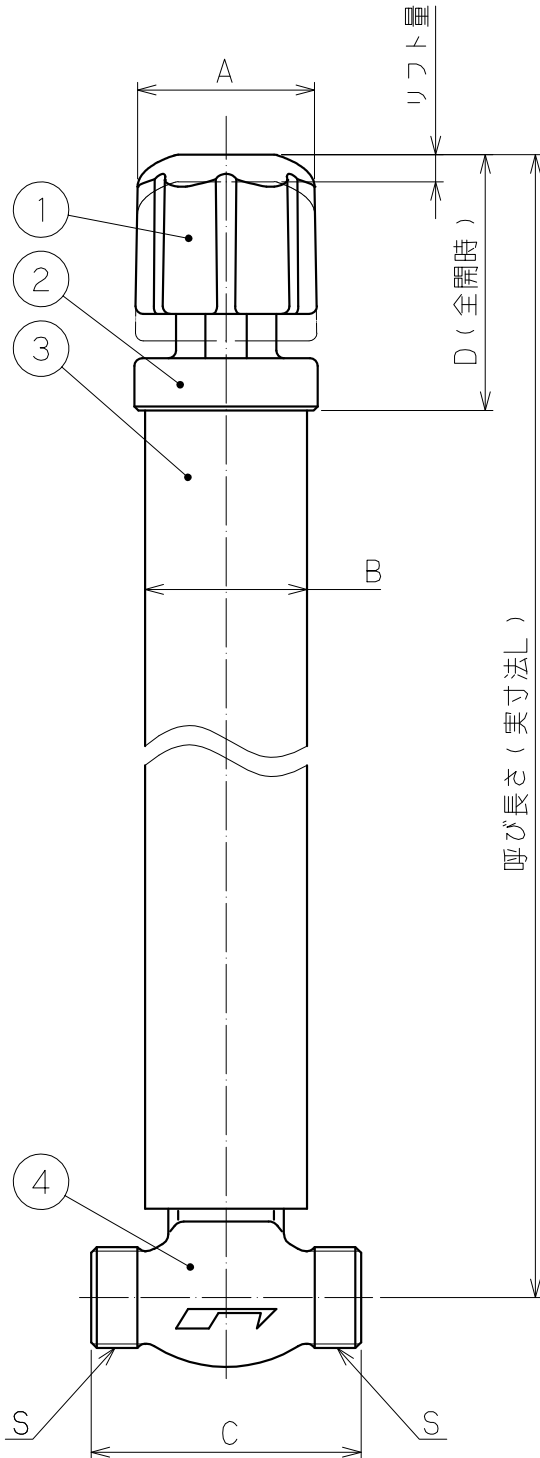
品番	名	称
1	ハンドル	
2	キャップ	
3	外筒	
4	本体	

寸法

寸法	□径	13	20
A		φ47	
B		φ42	
C		70	80
D		67	
リフト量		7	
S		G3/4	G1

L寸法一覧

呼び長さ	□径	13	20
0.3m		295	
0.4m		395	
0.6m		595	



尺度	1:2	設計	橋本	製図	青木	検印	牧	承認	坂田	日付	2008.7.8	
投影法	型式		MV		分類		不凍水抜栓					
	□径		13・20 mm		仕様							
変更日								変更者				
								管理番号				